

【第1号議案】

2023年度会務総括報告

2023年度事業ならびに会務運営は、2022年度第6回理事会において承認（2023年度定時総会にて報告）された事業計画に基づき執行した。

第79回総会学術大会は、2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、予定通り横浜での現地開催と5月23日までのオンデマンド配信を組み合わせたハイブリッド開催にて成功裏に実施した。参加登録者数（5,272名）は前年比約25%と増加した。現地参加率は（71.42%）で前年比22%増加となり学会に活気が戻ってきた。感染予防のため控えていた学術大会への対面参加もようやく回復の兆しが見えてきたと考える。The 2nd International Conference on Radiological Physics and Technology (The 2nd ICRPT) には、JSRTとJSMPを合わせて、113演題の一般演題発表が行われた。会場では英語での質疑応答が活発に行われる場面がみられ、今後は海外からの演題登録の増加を目指して、国際会議としての位置付けを着実に広報することで益々の発展が期待できる。国際的な学術連携では、中華医学会影像技術学会（中華人民共和国）、大韓放射線科学会（大韓民国）やタイ医学物理学会（タイ王国）とは対面での交流を回復することができた。中華民国醫事放射學會（台湾）とは対面での交流は果たせなかったが、代表理事のビデオレターを送付するという形で交流を継続した。国内では、ICRP国際シンポジウム（ICRP2023）のサテライト企画として「日本における生殖腺防護の取り組み」（JART・JSRT共催）を運営した。

医療技術等国際展開推進事業（厚生労働省）の助成を得て、ラオス大使館、ラオス保健省などとの連携のなかで進めている「ラオスにおける放射線医療機器の品質・安全管理技術の向上を目的とした技術研修」事業は、X線撮影装置やCT装置などの原理、核医学の基礎に関するセミナーや、検査装置の日常点検を含めた安全管理に関するセミナー、実地研修を実施した。本事業には現地から継続の要請があることから、次年度も事業を継続する方針で準備をしている。

国内の関連団体との学術連携については、新たに日本放射線影響学会(JRRS)と学術交流促進に関する覚書、日本医用画像工学会(JAMIT)と参加費優遇制度に関する覚書を取り交わした。また、日本放射線看護学会の第12回学術集会では、共同企画として合同セッションを開催した。日本診療放射線技師会とは、2024年に第1回日本放射線医療技術大会を共同開催(沖縄県)することを決定した。

2023年度末の正会員数は15,923名であり、2022年度末の正会員数16,144名と比べて減少(221名)となった。年会費を無償とした学生会員は1,657名となり、前年度と同様に高い水準を維持した。

2020年から感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の余波が残る状況であるにも関わらず、会員諸氏の温かいご理解と担当役員・委員の献身的な努力により、学会一丸となって事業を執行できたことに深甚の謝意を表する。

以下に、2023年度事業の全般にわたり、その概要を報告する。

1. 学術集会事業；公1

1) 総会学術大会の開催

第79回総会学術大会は、パシフィコ横浜にて市田隆雄大会長のもと2023年4月13日(木)～16日(日)の4日間、対面開催を行った。また、対面開催に引き続き、2023年5月23日(火)まで、約1か月間にわたりオンデマンド開催を行った。一般研究発表演題は375題、参加登録者数は正会員4,355名、学生917名で総計5,272名であった。

第80回総会学術大会は2024年4月11日(木)～14日(日)の4日間、根岸徹大会長のもとパシフィコ横浜会議センター他で開催すべく準備を進めた。

2) 秋季学術大会の開催

第51回秋季学術大会は、名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)にて小山修司大会長のもと2023年10月27日(金)～29日(日)の3日間開催した。さらに、2023年11月10日(金)～12月8日(金)の約1か月間はオンデマンドで開催した。一般研究発表演題は332題、参加登録者数は2,305名であった。

第52回秋季学術大会(第1回日本放射線医療技術学術大会)を2024年10月31日(木)～11月3日(日)の4日間、白石順二大会長(JSRT)・上田克彦大会長(JART)のもと沖縄コンベンションセンター(宜野湾市)で開催すべく準備を進めた。

3) 専門部会プログラム、セミナーの開催

7つの専門部会が総会学術大会にジョイントして部会プログラムを開催し、教育講演や種々の企画を行った。さらに、教育委員会、専門部会、地方支部の共催でセミナーを開催した。各専門部会の開催内容を以下に示す。

画像部会は、ROCセミナー、医用画像処理プログラミングセミナーとDRセミナーを各1回開催した。

核医学部会は、核医学画像セミナーと核医学技術研修会は各1回、核医学オンラインジャーナルクラブを4回開催した。

放射線治療部会は、放射線治療セミナーを2回開催した。

撮影部会は、3回の乳房撮影ガイドライン・精度管理研修会、デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナー、CT応用セミナー、実地で学ぶMRI安全管理セミナーを各1回開催した。

計測部会は、簡易線量計製作セミナー、サーベイメータ活用セミナーを各1回、診断X線領域の線量測定基礎Webセミナーを2回開催した。

放射線防護部会は、2回の放射線影響と防護量の考え方を学ぶWebセミナーと“伝わる”医療被ばく相談実践セミナーを1回開催した。

医療情報部会は、2回のPACS SpecialistセミナーとPACSベーシックセミナーは各1回、2023年度医療情報Webinarを5回開催した。

4) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の学術大会ならびに支部事業を開催した。

- ① 北海道支部：北海道支部第79回春季大会、秋季大会とセミナーなど2回
- ② 東北支部：東北支部第61回学術大会、学術講演会やセミナーなど8回
- ③ 関東支部：東京・関東支部合同研究発表大会2023、学術講演会や研究会を22回
- ④ 東京支部：第77回東京支部春期学術大会他、技術フォーラムやセミナーなど28回
- ⑤ 中部支部：第57回中部支部学術大会、学術や技術セミナーなど24回
- ⑥ 近畿支部：第67回近畿支部学術大会、勉強会やセミナーなど15回
- ⑦ 中国・四国支部：第64回中国・四国支部学術大会、夏季学術大会やセミナーなど10回
- ⑧ 九州支部：第72回九州支部学術大会、コミュニティやセミナーなど11回

5) 公開シンポジウム・公開講座の開催

一般市民を対象とした2023年度市民公開講座はハイブリッド開催にて「医療放射線による生殖腺被ばくを考える～安心して検査を受けていただくために～」をテーマに開催しリアルタイムで179名が参加した。その後のオンデマンド配信の視聴者は223名であった。2023年度市民公開講シンポジウム「医療画像の向こう側～ドラマのようになぜ病気がわかるのか?～」は、ハートピア京都（京都市）にて開催し、31名が参加した。後日、約1か月間に渡りオンデマンド配信した。2023年度JSRT-JART合同市民公開講座「家族、医療者みんなで支える認知症」を札幌医科大学講堂（札幌市）にて開催し、参加者は72名であった。

6) フォーラムの開催

広報、啓発を目的として第79回総会学術大会時に、標準・規格委員会は標準化フォーラム、放射線防護委員会は放射線防護フォーラム、関係法令委員会は放射線管理フォーラム、医療安全委員会は医療安全フォーラムを開催した。また、第51回秋季学術大会時には、標準・規格委員会は標準化フォーラム、放射線防護委員会は放射線防護フォーラム、関係法令委員会は放射線管理フォーラム、医療安全委員会は医療安全フォーラムを開催した。

2. 刊行広報事業；公2

1) 学会誌の発行

学会誌第79巻1号～第79巻12号の12冊（論文特集号1冊含む）を毎月20日に発行した。2023年1月～12月で掲載論文数が66編（昨年73編）となった。

2) 英語論文誌の発行

公益社団法人 日本医学物理学会との共同発刊で、第 16 巻第 1 号 (3 月) , 第 2 号 (6 月) , 第 3 号 (9 月) , 第 4 号 (12 月) を発刊した。冊子体は正会員の希望者のみの配布とした。

3) 出版活動

放射線治療部会より叢書 (40) 「実践 IGRT」を 12 月に 1,500 部発刊した。撮影部会の乳房撮影ガイドライン普及班より叢書 (39) 「乳房撮影精度管理マニュアル」を 9 月に 4,000 部増刷した。
放射線技術学シリーズは、11 月に「放射化学 (改訂 4 版)」の発行した。また、放射線技術学スキル UP シリーズは 1 月に「X 線 CT 撮像ガイドライン ~GALACTIC~ (改訂 3 版)」を発行した。

4) 専門部会雑誌の発行

各専門部会において専門部会雑誌を発行した。

- ① 画像部会： Vol. 46 No. 1, No. 2
- ② 核医学部会： Vol. 44 No. 1, No. 2
- ③ 治療部会： Vol. 37 No. 1, No. 2
- ④ 撮影部会： Vol. 31 No. 1, No. 2
- ⑤ 計測部会： Vol. 31 No. 1, No. 2
- ⑥ 放射線防護部会 Vol. 23 No. 1, No. 2
- ⑦ 医療情報部会： Vol. 20 No. 1, No. 2

5) 地方支部雑誌の発行

各地方支部において地方支部雑誌を発行した。

- ① 北海道支部： Vol. 94, Vol. 95
- ② 東北支部： 第 33 号
- ③ 関東支部： 26 号
- ④ 東京支部： Vol. 138
- ⑤ 中部支部： Vol. 25
- ⑥ 近畿支部： Vol. 29 No. 1, No. 2, No. 3
- ⑦ 九州支部： Vol. 22

6) 広報活動

会告、お知らせ、イベント、他団体からの案内をホームページ (和文) 等に掲載し、広報活動を展開した。一方、医療に関する放射線被ばくや放射線の基礎知識に関する市民からの問い合わせに対して迅速に対応した。

3. 研究調査事業 ; 公 3

学術研究班 2022~2023 年度 : 6 班, 2023~2024 年度 : 7 班 合計 13 班を編成して学術活動を行った。

第 79 回総会学術大会では、専門部会講座の「入門編」8 講座、「専門編」7 講座ならびに、教育講座を 2 講座開催した。また、第 50 回秋季学術大会では、専門部会講座の「入門編」9 講座、「専門編」6 講座ならびに、教育関連のシンポジウムおよび講座を開催した。さらに、2 つの e-learning コンテンツを作成して、学会の動画チャンネルに掲載した。

4. 研究奨励事業 ; 公 4

2023 年度表彰は、表彰規程に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞、国際貢献賞の選考・推薦を行った。また、各地方支部において表彰を行った。

- ① 東北支部： 支部賞 1 名, 功労賞 2 名, 学術奨励賞 2 名, 若手奨励賞 3 名
- ② 関東支部： 功労賞 2 名, 技術奨励賞 3 名, 新人賞 5 名, 養成校学部卒業生優秀賞 7 校
- ③ 東京支部： 支部長賞 1 名, 功労賞 2 名, 学術奨励賞 1 名, 新人研究奨励賞 5 名, Research Award 1 名
- ④ 中部支部： 功労賞 1 名, 奨励賞 9 名
- ⑤ 近畿支部： 会長賞 1 名, 優秀賞 1 名, 新人奨励賞 7 名

- ⑥ 中国・四国支部：功労賞 3 名，奨励賞 4 名，学士優秀発表賞 15 名
- ⑦ 九州支部： 支部功労賞 4 名，支部研究奨励賞 3 名，支部論文化奨励賞 5 名，学生優秀賞 5 名

5. 連携交流事業；公5

1) 国内

- (1) JRC 理事会に役員を 6 名派遣し，学術大会開催企画に積極的に参画した。
- (2) 一般社団法人 日本放射線看護学会に役員 5 名を連携会員として登録した。
- (3) 日本放射線影響学会（JRRS）との学術交流促進に関する覚書の締結を行った。
- (4) 日本医用画像工学会（JAMIT）との参加費優遇制度に関する覚書の締結を行った。
- (5) 標準・規格委員会活動として，JIRA，日本 IHE 協会，DICOM 委員会と協力し JIS 原案作成分科会班活動とともに JIS の制定・改正作業に参画した。
- (6) 関連学協会への委員の派遣や共催・後援を積極的に行い情報交換や人的交流の促進に努めた。
- (7) 放射線診療 4 団体連絡協議会（JRS，JCR，JART，JSRT）として 3 回の会合に参加した。
- (8) 公益社団法人 日本医学物理学会と 2 回の懇談会を開催した。
- (9) 公益社団法人 日本診療放射線技師会と 2 回の懇談会を開催した。

2) 海外

新型コロナウイルス感染症が一段落して開催された ISMRM（1 名）AAPM（1 名），RSNA（4 名），ICMP（1 名）へ派遣した。また，海外短期留学はなかった。

本会および交流のある学会のうち，中華医学会影像技術学会（CSIT）第 31 回大会には石田代表理事を含む 3 名が対面参加，大韓放射線科学会（KSRS）春季学術大会には 2 名の対面参加と代表理事のビデオレター送付。中華民国醫事放射學會（TWSRT）第 56 回大会には，代表理事のビデオレターと抄録を送付。タイ医学物理学会（TMPS）第 15 回大会には代表理事を含む 2 名が対面参加した。今後は人的交流が活発化する兆しも見え始めたので，学術協定の更新を含めて交流を推進したいと考えている。